

平成29年度



学校だより大宮

学校教育目標

「自ら学び 考え 行動する子どもの育成」

京都市立大宮小学校
校長 高宮佳彦
北区大宮中ノ社町37
TEL 491-0783
FAX 492-4221

平成29年度全国学力学習状況調査の結果

4月18日に6年生を対象として行われた「全国学力学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語A B、算数A Bとともに、全国平均を上回りました。国語Aと算数Aは、主として知識や技能の習熟の程度を調査するものです。国語Bと算数Bは、主として実生活の様々な場面に活用する力や課題解決のために評価・改善する力を問う調査です。昨年と比べて、国語・算数の勉強が好き・大切と答える児童が10%ほど増えました。全ての問題を最後まで書こうと努力したと回答する児童が多く、難しい問題もあきらめずに取り組むことを心がけていることがうかがえます。

教科別結果（国語A・B）

国語Aにおいて特徴は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」の全ての観点において、全国平均を上回りました。普段から相手の話をよく聞き授業で考えたことを話し合う活動を行っていること、めあて・課題意識をもって書くことの積み重ねが正答率の高さになって表れていると考えられます。

しかし、細かく見ていくと、全国・京都府の平均を下回っている項目もあります。漢字を書くことで正答率が低いものがありました。「参加 たいしよう」の「たいしよう」を漢字で書く設問で、正答は「対象」です。回答傾向を見てみると「対照」と書いている傾向が多くなっています。案内文中のひらがなを漢字に直すという出題の仕方に戸惑い、同音異義語の解答が増えたようです。学習した漢字を日常の実生活で使っていく必要性があり、漢字を使うことのよさに気付くことができるように取組を行っていきたいと思います。

また、全国的に正答率の低い、手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する問題がありました。日常で手紙を書く機会が減ってきてる分、学習後に各教科等で手紙を書く機会をつくり、繰り返し行うことで身についていくと考えられます。国語では、他にも「感想文」「報告文」「記録文」「ポスター」「パンフレット」などがあり、学習した各種文書様式を各教科、学級活動、行事などでも意識して書くように取り組んでいきたいと思います。



国語Bにおいては、解答形式で見ると、記述式の問題で全国よりも下回った問題がありました。授業の中で、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話しているものの、スピーチメモから内容を取り上げて書くことに課題が見られ、グループでの話し合いでメモをとり、めあてと意見を関連付けて交流したり、およその文字数を制限するなど要点をまとめて話し合いをしたりする活動が必要だと考えられます。



目的や意図に応じて話し合ったり、意図を捉えたりすることは全国を大きく上回っていました。問題を解決する過程で、資料の意図を捉えたり、引用したりする経験が積み重ねられていたと考えられます。

今後、話し合いの中で、自分の考えを広げたり深めたりするために、共通点や相違点を明らかにする交流となるよう、目的や必然性をはっきりとさせて継続的に取り組んでいきたいと思います。

教科別結果（算数A・B）

算数Aの課題として、「 $5 \div 9$ の商を分数で表す」問題では、「商」という言葉を考えすぎて、割り算を行って（小数）から分数に直そうとしている解答が多く見られました。「数と計算」「量と測定」の領域で、全国平均を下回っていることから、ドリル等で繰り返し学習し、知識・技能の確実な定着を図ることを行っていきたいと思います。

「図形」領域において、「立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ」問題では、全国平均を大きく上回りました。実際に、作図し立方体を作る算数的活動が充実していて図形についての感覚が豊かであったと考えられます。また「数量関係」の領域では、「二次元表の合計欄に入る数を書く問題で全国の正答率より高い正答率でした。この設問から、2つの観点から、分類・整理し表を用いて表すことができ、数値が適切であるか確認することができます。

算数Bでは、割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができるか、示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できるかどうか、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかといった「割合」が関係する設問に課題が見られました。割合の見方・考え方を育てるために、「基準量・比較量・割合」の関係を正しくとらえ、図・式・言葉を関連付けた指導を充実させていきたいと思います。



質問紙調査

（長所と言えるところ）※は、昨年度よりさらに伸びたところ
早寝・早起きができている。



ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった経験がある。



難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。※

自分には、よいところがある。※

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。



家の人と学校の出来事について話している。

家で計画を立てて勉強したり、宿題をしたり、授業の復習をしたりしている。※



学校のきまりを守っている。※

人が困っているときは進んで助けている。※

（課題がみられたところ）

今住んでいる地域の行事にあまり参加していない。（全国と比べて）



地域社会などでボランティア活動に参加したことがあまりない。（全国と比べて）

学校図書館や地域の図書館に月に1回以上行く。（全国と比べて）

全国の調査と比べると、人が困っているときに進んで助けたいとすばらしい志をもっています。国語や算数の正答率が低い問題もありましたが、授業ではめあてや課題を意識して、将来に役に立つという意識をもって取り組むことができることはすばらしいことだと思います。がんばってきたことに、自信をもって、1つ1つ積み重ねてできることを増やしてほしいと思います。そして、苦手な教科・領域も好きになるように授業を工夫ていきたいと考えます。先生によいところを認めてくれていると思う回答が今年度増えましたが、さらに子どもの良さを導き出し、課題は教職員間で認識を共有し、解決に取り組んでまいります。